

平成26年度

公立大学法人奈良県立医科大学の業務実績に関する評価結果

平成27年8月

奈良県公立大学法人奈良県立医科大学評価委員会

目 次

全体評価	2
項目別評価	
I 地域貢献	
1 教育関連	4
2 研究関連	7
3 診療関連	8
II 教育	12
III 研究	14
IV 診療	16
V まちづくり	19
VI 法人運営	20

奈良県公立大学法人奈良県立医科大学評価委員会は、地方独立行政法人法第28条の規定により、公立大学法人奈良県立医科大学の業務実績について以下のとおり評価を行った。

【平成26年度評価】

「全体評価」

全体評価は、項目別評価及び法人の自己評価を踏まえつつ、法人の中期計画の進捗状況全体について、記述式により評価を行う。

「項目別評価」

業務実績報告書の検証を踏まえ、項目別に進捗状況・成果を下記の5段階で評定する。

- V 中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある
- IV 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
- III 中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる
- II 中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている
- I 中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある

なお、各項目における評価指標についても、下記の3段階で評定する。

- ◎ 実績が指標を大幅に上回っていると認められるもの
- 実績がおおむね指標を達成していると認められるもの
- 実績が指標を下回っているもの

全体評価

公立大学法人奈良県立医科大学は、第2期中期目標期間（平成25年度から30年度まで）に入り、平成26年度は法人化8年目を迎え、第2期中期目標期間の2年目の評価にあたる。

平成25年度からスタートした第2期中期目標では、「地域貢献」、「教育」、「研究」、「診療」、「まちづくり」、「法人運営」の6つの大きな分野とそれぞれの項目について、数値目標を含め具体的な成果目標を掲げた。

法人では、昨年度設置した県立医大医師派遣センターの運営や南和地域公立病院等への医師派遣支援のための実態把握、良き医療人の育成を目指した新カリキュラムの編成、女性教員や研究者に対する支援員制度の拡充、学内保育園の定員増及び病児保育制度の導入などに取り組むとともに、中期計画の全ての項目について、定期的に進捗状況を把握し、進捗管理を行うなど、中期計画・年度計画実現のために意欲的に取り組んでいる。

平成26年度評価

平成26年度の業務実績の中で注目される取組として、以下の点などがあげられる。

- ・「県立医大医師派遣センターの機能や運用について県内の病院に周知を図るなど、センターの円滑な運営に取り組んでいる」
- ・「南和地域公立病院等の実態を把握し、医師配置支援のための調整を図っている」
- ・「認定看護師・専門看護師の養成について、年度計画を上回って取り組んでいる」
- ・「県民健康増進支援センター規程に基づき、専任スタッフを配置し、県・市町村が実施する保健事業に対し、指導・助言を行い、地域包括ケアシステム構築に関連する会議・研修会に参加している」
- ・「搬送コーディネートを行う産科医を多数確保し、平成26年度から総合周産期母子医療センターにおいて、母子搬送コーディネーター事業を順調に実施している」
- ・「登録医が治療情報の把握等のため、附属病院に紹介した患者の電子カルテ閲覧・病室訪問を認め、連携登録医制度を充実した。初診紹介予約制度の利用促進のため初診患者予約枠を拡大し、制度未活用医療機関へ利用案内を郵送及び訪問活動により啓発した結果、紹介率・逆紹介率が向上している」
- ・「「一般教育検討委員会」及び「医大の将来像策定会議」で教養教育を含む、良き医療人の育成を目指した統合的な新カリキュラムの編成案を作成している」
- ・「女性研究者の研究継続支援として、研究支援員制度の対象範囲を、女性の教員に加えて診療助教及び研究助教も対象とする制度に変更し、実施している」
- ・「平成27年1月より民間施設を活用した病児保育制度を導入している。また、平成26年度に学内保育園を増築し、平成27年度より定員を増やす予定である」
- ・「E棟Ⅱ期工事完成に向けて放射線治療装置の選定、PETCT装置の選定を行っている。また、腫瘍学セミナーやがん診療連携拠点病院研修会を開催し、がん医療に携わる人材を育成している」

- ・「診療科ごとの稼働状況（収入、患者数、DPC分析など）を4半期ごとに、また、附属病院の各診療科別SWOT分析について各診療科に提示し、要改善点などを伝達している。経営検討会議において数値目標を上方修正し、達成状況を管理・運営している」
- ・「平成26年度は、病床稼働率の目標を達成し、前年度よりも病院収入を増加させており、また、診療報酬請求のより一層の適正化に努めている」

狭隘で老朽化した施設の対策として、教育・研究部門の移転による新キャンパスの整備並びに病院施設の再整備を図ることについて、平成25年度からの第2期中期目標・中期計画の中に位置付け、平成26年度計画では、その実現に向けた施設整備基本計画を策定すると定めたところである。年度計画を策定した後に、県の意向も踏まえ、医大の再整備に当たって、少なくとも30年から40年先を見据えた医大の建学の精神とも言うべき将来像をしっかりと踏まえる必要があるとの考えに立ち、県と医大とで構成する「医大の将来像策定会議」を設置し、以降、おおむね月1回開催し、医大の目指すべき将来像について議論、検討している。そして、医大の目指すべき将来像を定めた上で具体的な施設整備の内容を決めることとして取り組んでいる。平成26年度では、医大の目指すべき将来像の検討について、広範かつ緻密な議論を尽くしながら行っているため、新キャンパスの基本構想、基本計画の策定には至っていない。平成27年度では年度内に医大の目指すべき将来像を取りまとめるべく議論、検討している。医大の目指すべき将来像が定まった後に、それを踏まえて全体的な施設整備基本計画の策定を進めるとしているところである。

これらの取組を含めて、公立大学法人奈良県立医科大学の平成26年度計画のすべての業務実績について、「公立大学法人奈良県立医科大学の各年度終了時の評価に係る実施要領」に基づき評価した結果、中期目標で掲げる8項目中全項目（Ⅰ.地域貢献<教育関連>、Ⅰ.地域貢献<研究関連>、Ⅰ.地域貢献<診療関連>、Ⅱ.教育、Ⅲ.研究、Ⅳ.診療、Ⅴ.まちづくり、Ⅵ.法人運営）について、数値目標を含めて「中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる」又は「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評定し、年度計画で定めた事業をおおむね実施していると判断した。

以上のことを踏まえ、公立大学法人奈良県立医科大学の平成26年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としては順調に進んでいると認められる。

項目別評価

I. 地域貢献(教育関連)

1. 医療人の育成(医師関連)・医師派遣システムの適切な実行・医療人の育成(看護師関連)
2. 看護師の地域貢献

中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)県立医大医師派遣センターを設置・運営する[I-1] ・医学科卒業生の県内卒後臨床研修病院への就職率60%を目指す[I-1] ・(仮称)県費奨学生配置センターを設置・運営する[I-1] ・公立・公的病院等からの要望に対応した最適な医師配置(配置数)40名を目指す[I-1] ・地域に貢献する医師の育成数延べ86名を目指す[I-1] ・看護学科卒業生の県内就職率60%を目指す[I-1] ・認定看護師や専門看護師の総数を平成24年度11月現在と比べ1.5倍を目指す[I-2] 	
年度評価	IV	中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

注目される取組(○)

- 中期計画「教養教育等を通じ奈良への愛着、県内の地域医療に対する意識を涵養するとともに、(仮称)県立医大医師派遣センターを設置・運営し、県内への高い就職率を確保する。」に係る、平成26年度計画「県立医大医師派遣センターを円滑に運営するためにセンターの機能等について学内外に周知を図る。」に対して、「県立医大医師派遣センターの運用に関する規程」を作成するとともに、運用について県内16病院に説明を行っている。
- 中期計画「教養教育等を通じ奈良への愛着、県内の地域医療に対する意識を涵養するとともに、(仮称)県立医大医師派遣センターを設置・運営し、県内への高い就職率を確保する。」に係る、平成26年度計画「引き続き南和地域公立病院等への医師配置支援のために当該病院等の実態やニーズの把握を行う。」に対して、南和地域公立病院等への医師配置支援のために当該病院等の実態や地域の医療ニーズを把握するとともに、医大各医局へ説明を行い、人事状況及び要望等を聞き取り、今後の調整を図っている。
- 中期計画「教養教育等を通じ奈良への愛着、県内の地域医療に対する意識を涵養するとともに、(仮称)県立医大医師派遣センターを設置・運営し、県内への高い就職率を確保する。」に係る、平成26年度計画「一般教育検討委員会で奈良の歴史・文化を学ぶ授業科目の設置について検討する。」に対して、「一般教育検討委員会」及び「医大の将来像策定会議」で検討し、『現地を訪問し、奈良の医療状況・歴史・人物等を通して「奈良」についての理解を深める中で、奈良の医療に貢献する意思を涵養する』ことを一般目標とし、奈良学の講義骨子を決定している。
- 中期計画「(仮称)県費奨学生配置センターを設置し、県等との連携のもと、医師派遣システムを構築することにより、地域に必要な医師配置の実現に積極的に寄与する。」に係る、平成26年度計画「県費奨学生の配置のための年間スケジュールを作成するなど、着実な運営に努める。」に対して、来年度から義務を開始する奨学生と面談を実施し、各医局と調整したうえで配置案を策定している。離脱防止策について検討を行っている。県費奨学生配置センター機関誌『Glocal』を発行し、奨学生や臨床研修病院をはじめ県内病院へ情報提供するとともに、奨学生に対する説明会や交流会も開催している。へき地医療支援機構との調整を行っている。
- 中期計画「(仮称)県費奨学生配置センターを設置し、県等との連携のもと、医師派遣システムを構築することにより、地域に必要な医師配置の実現に積極的に寄与する。」に係る、平成26年度計画「引き続き南和地域公立病院等県内の医療実態とニーズを県と連携して把握し、県費奨学生の配置先を決定する。」に対して、将来の南和医療を見据えて、南和地域の医療に必要な人材の把握に努め、人材を育成すべく配置先を決定している。

- 中期計画「(仮称)看護実践・キャリア支援センターを設置・運営する等、看護学生の就労支援を行い、県内就職率の向上に努める。」に係る、平成26年度計画「・看護実践・キャリア支援センターを設置する。・看護学科学生のキャリア支援を行う。・看護師のキャリア支援・研修について、既存の研修メニュー等と調整する。・スキルスラボ等の活用を通じて、看護学科学生及び看護師の実践能力の向上を図る。」に対して、看護実践・キャリア支援センターを平成26年4月に設置し、看護学科学生及び附属病院看護職者に対し、①看護基礎教育、②キャリア支援、③研究支援、④地域貢献の分野別事業計画に基づき、研修メニューの策定・実施、スキルスラボの活用をはじめとする各事業を実施している。
- 中期計画「認定看護師や専門看護師を増やすとともに、附属病院看護部と看護学科が協働・連携する体制を構築し、看護職員等の教育・研修プログラム及びキャリア支援を充実させることにより、地域の看護師のレベルアップを目指す。」に係る、平成26年度計画「引き続き、認定看護師の養成を推進する。特に「皮膚・排泄ケア」「慢性心不全」「手術看護」「がん化学療法」分野の養成を目指す。」に対して、がん化学療法分野に1名合格し、慢性心不全、皮膚・排泄ケア、手術看護分野で3名が認定看護師研修を修了し、来年度認定試験の受験を予定している。
- 中期計画「認定看護師・専門看護師を増やすとともに、附属病院看護部と看護学科が協働・連携する体制を構築し、看護職員等の教育・研修プログラム及びキャリア支援を充実させることにより、地域の看護師のレベルアップを目指す。」に係る、平成26年度計画「・専門看護師の養成を行うか、もしくは他の方法でのキャリア支援を行うかの検討を行う。・特定行為に係る看護師の指定研修について、本院での導入について検討し、必要な準備を行う。」に対して、看護学科運営会議において検討を行い、平成27年度に看護学科学生を対象とし、CNS・博士課程等についてニーズ調査を行うこととなり、特定行為に係る看護師の指定研修機関の申請についても、病院長、看護部長をはじめとする関係者が参集し打ち合わせを行っている。
- 中期計画「認定看護師・専門看護師を増やすとともに、附属病院看護部と看護学科が協働・連携する体制を構築し、看護職員等の教育・研修プログラム及びキャリア支援を充実させることにより、地域の看護師のレベルアップを目指す。」に係る、平成26年度計画「・研修計画に基づく研修を実施する。・本院の看護職員が地域全体の看護のレベルアップのための指導・助言を行う。」に対して、教育・研修計画に基づく新人看護師:152時間、及び現任看護師:176.5時間の研修を実施し、さらに、レベル別にクリニカルラダー研修を実施している。また、地域の看護師を対象に、がん領域の専門看護師と認定看護師による研修会を5回実施している。
- 中期計画「認定看護師・専門看護師を増やすとともに、附属病院看護部と看護学科が協働・連携する体制を構築し、看護職員等の教育・研修プログラム及びキャリア支援を充実させることにより、地域の看護師のレベルアップを目指す。」に係る、平成26年度計画「・看護実践・キャリア支援センターを設置する。スキルスラボについて、・医学科と調整を図り、看護学科の学生の利用を開始する。・病院看護部等の臨床スタッフの利用を開始する。」に対して、平成26年4月に看護実践・キャリア支援センターを設置し、臨床スタッフ(病院看護部等)を対象に81日間、医学科学生を対象に13日間スキルスラボを開放し活用させている。

【評価指標】

◎看護学科卒業生の県内就職者数は、医科大学附属病院への就職者数の増加などから、年度指標を大幅に上回っている。

◎認定看護師・専門看護師数は、昨年度より認定看護師が5名、専門看護師が2名増加したことから、年度指標を大幅に上回っている。

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
医学科卒業生の 県内卒後臨床 研修就職者数*	指標	51名	54名	57名	60名	63名	66名** (60%)
	実績	56名	48名***				
	評定	◎	○				
* 緊急医師確保修学資金による増13名含む							
** 県内就職率約60%を確保するための必要数:66名							
*** 48名のうち35名が附属病院、13名が県内病院へ就職							

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
県費奨学生の 医師配置数*	指標	8名	15名	17名	22名	29名	40名
	実績	8名	13名				
	評定	○	○				
* 医師確保修学研修資金の義務履行者を主とする医師配置数(近畿大学医学部奈良病院含む)							

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
緊急医師 確保枠を 主とする 医師育成数	指標	延べ26名	延べ39名	延べ52名	延べ65名	延べ78名	延べ86名
	実績	延べ26名	延べ39名				
	評定	○	○				

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
看護学科 卒業生の 県内就職者数	指標	33名	38名	45名	50名	52名	54名* (60%)
	実績	48名	62名**				
	評定	◎	◎				
* 県内就職率60%を確保するための必要数:54名							
** 66名が看護師として就職し、うち56名(附属病院52名、県内病院4名)が県内就職、8名が保健師として就職し、うち6名が県内に就職							

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
認定看護師・ 専門看護師数	指標	25名	27名	29名	31名	33名	35名*
	実績	26名	33名**				
	評定	○	◎				
* 平成24年度11月現在の23名の1.5倍							
** 33名のうち、認定看護師が26名、専門看護師が7名							

項目別評価

I. 地域貢献<研究関連>

3. 研究成果等の地域への還元 4. 健康増進の県民アプローチの充実

中期目標	・住居医学講座、スポーツ医学講座などのエビデンスの確立と講習会等を実施する[I-3] ・(仮称)大和漢方医学薬学センターを設置・運営する[I-3] ・外部有識者を含む評価委員会を設置・運営する[I-3] ・県民の健康増進支援組織を設置・運営する[I-4]	
年度評価	IV	中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

注目される取組(○)

- 中期計画「住居医学講座や(仮称)大和漢方医学薬学センター、スポーツ医学講座等を核として産学官連携による研究推進に取り組む。」に係る、平成26年度計画「研究成果を生かして、国の大型研究プロジェクトを申請する。」に対して、奈良県・橿原市・明日香村とともに、内閣府の「地域活性化モデルケース」に選定され、内閣府に「地域再生計画」を申請し、認定を受けている。
- 中期計画「市町村や県が実施している健康増進事業に協力するとともに、予防医学や健康づくりの適切な情報や研究成果を提供することにより地域住民のセルフケアを支援する。」に係る、平成26年度計画「・県民健康増進支援センターに専任スタッフを配置する。・県民健康増進支援センターにおいて、県市町村が行う保健事業に対し指導・助言などを行う。」に対して、県民健康増進支援センター規程に基づき、専任スタッフを配置し、県市町村が行う保健事業に対し指導・助言を行い、地域包括ケアシステム構築に関連する会議・研修会に参加している。

項目別評価

I. 地域貢献〈診療関連〉

5. 断らない救急医療体制の整備 6. 周産期医療体制の強化 7. 他の医療機関との連携強化
8. 県内医療人への助言・指導

<p>中期目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・重篤な救急患者の高度救命救急センターの受入率を100%に近づける[I -5] ・重篤な救急患者を断らないシステムを構築する[I -5] ・県内救急搬送のコーディネート機能を運用する[I -5] ・新生児・母体の県内受入率を100%に近づける[I -6] ・「脳卒中、心筋梗塞、糖尿病、がん、精神疾患」の地域医療連携パスの運用件数200件を目指す[I -7] ・認知症疾患医療センターを設置・運営する[I -7] ・紹介率75%、逆紹介率60%を目指す[I -7] ・医療関係者に対する研修会等の開催回数を平成23年度に比べ倍増を目指す[I -8]
<p>年度評価</p>	<p style="text-align: center;">IV 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる</p>

注目される取組(○)

- 中期計画「総合周産期母子医療センターの機能充実と施設間ネットワークとの連携を図ることにより母体・新生児搬送受入率 100%を目指すとともに、周産期医療を担い推進する人材(新生児科医、産科医、小児科医、小児外科医、助産師、看護師等)を養成する。」に係る、平成26年度計画「搬送コーディネートを行う産科医・新生児科医の確保・増員に努める。・母体搬送コーディネーター事業を実施する。」に対して、搬送コーディネートを行う産科医を18名確保し、平成26年度から総合周産期母子医療センターにおいて、母体搬送コーディネーター事業を実施し、順調に進捗している。
- 中期計画「総合周産期母子医療センターの機能充実と施設間ネットワークとの連携を図ることにより母体・新生児搬送受入率 100%を目指すとともに、周産期医療を担い推進する人材(新生児科医、産科医、小児科医、小児外科医、助産師、看護師等)を養成する。」に係る、平成26年度計画「産科、小児科に進む県費奨学生に提示する適切なキャリアパスを地域医療学講座とともに検討する。・周産期医療従事者等への研修会(新生児蘇生法講習会、長期療養児在宅看護研修会)を開催する。」に対して、県費奨学生のキャリア形成支援、医師不足の医療機関の医師確保支援のため、県費奨学生配置センター運営委員会を開催するとともに、県費奨学生(10名)の今後の進路について面談を実施している。また、新生児蘇生法講習会3回、新生児蘇生法講習会3回実施している。
- 中期計画「各種地域医療連携パス、退院調整の効果的な運用、地域医療連携連絡協議会の活性化、連携登録医制度の導入による逆紹介等の促進により、地域医療連携をより一層推進する。また、基幹型認知症疾患医療センター、中核的な緩和ケアセンターを設置・運営する。」に係る、平成26年度計画「連携登録医制度の充実、予約診療等の拡充により逆紹介等の促進を図る。」に対して、登録医が治療情報の把握等のため、附属病院に紹介した患者の電子カルテ閲覧・病室訪問を認め連携登録医制度を充実し、初診紹介予約制度の利用促進のため、制度未活用医療機関へ利用案内を郵送及び訪問活動により啓発している。
- 中期計画「各種地域医療連携パス、退院調整の効果的な運用、地域医療連携連絡協議会の活性化、連携登録医制度の導入による逆紹介等の促進により、地域医療連携をより一層推進する。また、基幹型認知症疾患医療センター、中核的な緩和ケアセンターを設置・運営する。」に係る、平成26年度計画「退院調整の効果的な運用と啓発活動の推進により地域医療連携パスの運用件数の増加を図る。」に対して、眼科疾患パスを含め地域連携パスを17種別に拡大し、197件の運用件数に達している。小児センター、神経内科等、NICU 等で早期退院支援を平成26年6月から実施している。

- 中期計画「各種地域医療連携パス、退院調整の効果的な運用、地域医療連携連絡協議会の活性化、連携登録医制度の導入による逆紹介等の促進により、地域医療連携をより一層推進する。また、基幹型認知症疾患医療センター、中核的な緩和ケアセンターを設置・運営する。」に係る、平成26年度計画「本県緩和ケア提供体制の中で、中核的な緩和ケアセンターとしての役割を果たすべく稼働する。」に対して、延べ205名が参加した都道府県がん診療連携拠点病院研修会、がん就労研修会等を開催し、148名が参加した県民公開講座「がんタウンミーティング」を開催している。
- 中期計画「各種地域医療連携パス、退院調整の効果的な運用、地域医療連携連絡協議会の活性化、連携登録医制度の導入による逆紹介等の促進により、地域医療連携をより一層推進する。また、基幹型認知症疾患医療センター、中核的な緩和ケアセンターを設置・運営する。」に係る、平成26年度計画「基幹型認知症疾患医療センターの運営を行う。」に対して、かかりつけ医研修会、認知症疾患医療センター担当者連絡協議会等を開催し、地域医療機関との連携を図っている。
- 中期計画「県・市町村医師会や県看護協会と協働して、最新技術・情報を学べる研修やスキルスラボ実習を企画・実施するとともに、メーリングリスト等を活用した情報発信を行い、県内医療人のレベルアップに貢献する。」に係る、平成26年度計画「地域の医療従事者等を対象にした研修会の開催や情報発信を拡充する。①病院独自で行う医療情報の発信②地域医療連携を推進する地域医療連携懇話会及び地域医療連携を担う実務担当者の会議を各々年1回以上開催する。」に対して、「在宅緩和ケア」を主テーマに地域医療連携懇話会を開催し、緩和ケアに関する情報共有と緩和ケアパスの運用推進を図っている。

【評価指標】

◎地域医療連携パスの運用件数は、各種地域医療連携パスの運用促進と啓発活動等により、年度指標を大幅に上回っている。

◎研修会等の開催回数は、地域医療連携懇話会及び地域医療連携連絡協議会を地域医療連携室主催で開催するとともに、その他各専門分野において地域医療に従事する職員が参加する研修会を開催しており、年度指標を大幅に上回っている。

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
重篤な救急患者の高度救命救急センター受入率	指標	87%	89%	91%	93%	95%	100%に近づける
	実績	81.2%	98.7%*				
	評定	●	○				
参考指標 (救急患者受入率)		66.6%	79.8%				
* e-MATCH・ルール(疾患別)に基づく応需状況							

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
母体県内受入率	指標	93%	93%	93%	100%に近づける	100%に近づける	100%に近づける
	実績	92.6%	94.7%				
	評定	○	○				

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
新生児県内受入率	指標	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	実績	100%	100%				
	評定	○	○				

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
地域医療連携パスの運用件数	指標	140件	150件	165件	185件	200件	200件
	実績	127件	197件				
	評定	●	◎				

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
紹介率	指標	75%	75%	75%	75%	75%	75%
	実績	75.4%	79.3%				
	評定	○	○				

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
逆紹介率	指標	43%	48%	53%	56%	58%	60%
	実績	43.9%	52.0%				
	評定	○	○				

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
研修会等の 開催回数	指標	3回	4回	4回	4回	4回	4回**
	実績	3回	7回*				
	評定	○	◎				

* 地域医療連携懇話会及び地域医療連携連絡協議会を開催するとともに、その他各専門分野において地域医療に従事する職員が参加する研修会を開催している。

** 平成23年度の2回の2倍

項目別評価

Ⅱ. 教育

1. リベラルアーツ教育の実践 ・医の心をもった医療人の育成 ・医療経営に関する教育の確保
2. 教育内容の評価 3. 老朽・狭隘施設への対策

<p>中期目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リベラルアーツ教育に沿った新カリキュラムを導入する[Ⅱ-1] ・医師・看護師の理想像を理解し、医師・看護師になる強い自覚を持った学生の割合を90%に目指す[Ⅱ-1] ・外部有識者を含む一般教育検討委員会を設置・運営する[Ⅱ-1] ・大学院に医科学専攻医療経営学科目を設置する[Ⅱ-1] ・カリキュラムと授業の進め方に「不満」・「大いに不満」な学生の割合を平成22年度に比べ半減を目指す[Ⅱ-2] ・評価体制を構築し評価を実施する[Ⅱ-2] ・新キャンパスの平成33年中の移転を目指す[Ⅱ-3] ・教育・研究部門等移転対策委員会を設置・運営する[Ⅱ-3] 	
<p>年度評価</p>	<p>Ⅲ</p>	<p>中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる</p>

注目される取組(○)

- 中期計画「カリキュラムの見直し・再構築を行い、医療人にふさわしい教養や倫理観を培うリベラルアーツ教育、および国際感覚、実践的英語能力等の習得を目的とした幅広い教育を強化する。」に係る、平成26年度計画「一般教育検討委員会でカリキュラム編成案を作成する。」に対して、「一般教育検討委員会」及び「医大の将来像策定会議」で教養教育を含む、良き医療人の育成を目指した新カリキュラムの編成案を作成している。
- 中期計画「教員の教育力向上のためのFD(Faculty Development)活動の活性化および教員と学生の双方向性の授業評価システムを構築することにより、講義・実習・研修内容の充実を図る。」に係る、平成26年度計画「教員を対象とした研修会を実施し、研修結果を分析・評価する。また、以下について検討する。・FD研修を登録制にする。・新任教員については、必ずFD研修を受講させる。・教員の採用時等に使用する履歴書にFD研修受講歴を明記させる。」に対して、医学科および看護学科でFD研修会を実施し、授業の改善手法の見直し機会としている。FD研修について登録制、新任教員の必修化、履歴書への記入を実施している。

【評価指標】

◎看護学科における、カリキュラムと授業の進め方に「不満」・「大いに不満」な学生の割合が、年度指標を大幅に下回っている。

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
医師・看護師の理想像を理解し、医師・看護師になる強い自覚を持った学生の割合	指標	【医学科】 40%	55%	70%	80%	85%	90%
	実績	38% (93%)	38% (91%)*				
	評定	○	○				
	指標	【看護学科】 40%	55%	70%	80%	85%	90%
	実績	41% (95%)	40% (91%)*				
	評定	○	○				
* 括弧内における数字は、極めて強い自覚を持っている学生、強い自覚を持っている学生および自覚を持っている学生を含む割合。							

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
カリキュラムと授業の進め方に「不満」・「大いに不満」な学生の割合	指標	【医学科】 39%	36%	30%	26%	22%	20%
	実績	カリキュラム38% 授業31%	カリキュラム41% 授業33%				
	評定	○	○				
	指標	【看護学科】 39%	36%	30%	26%	22%	20%
	実績	カリキュラム16% 授業14%	カリキュラム10% 授業4%				
	評定	◎	◎				

項目別評価

Ⅲ. 研究

1. 研究の適切な成果評価 2. 有能な研究者の獲得 3. 健康・予防医療等研究範囲の拡大
4. 研究環境の改善

中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・外部有識者を含む評価委員会を設置・運営する[Ⅲ-1] ・基礎医学系教員14名以上の育成を目指す[Ⅲ-2] ・PubMed(※)対象の英文学術論文数延べ1,400件を目指す[Ⅲ-2] ・リビングサイエンスの推進に向けた具体的な研究を実施し、県内へ普及する[Ⅲ-3] ・新キャンパスの平成33年中のオープンを目指す[Ⅲ-4] ・教育・研究部門等移転対策検討委員会を設置・運営する[Ⅲ-4] <p>(※)PubMed…アメリカ国立医学図書館内の国立生物科学情報センター(NCBI)が運営する医学・生物分野の学術論文検索サービス</p>	
年度評価	Ⅳ	中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

注目される取組(○)

- 中期計画「研究に関する外部有識者を含む自己評価委員会を設置・運営するとともに、教室主任に研究目標の明確化を求め、達成状況を自己評価させ、極めて高い研究業績をあげた者に対する顕彰制度を新設する。」に係る、平成26年度計画「研究推進戦略本部において、医大基本構想等とも調整を図りながら、研究に関する将来構想について検討し、策定を目指す。・研究活動に関する課題ごとの基本方針を戦略本部案として取りまとめ、順次、理事長に答申・提言する。」に対して、県と法人が合同で設置・運営する「医大の将来像策定会議」において将来の奈良医大の研究のあり方を検討し、方向性はほぼ定まっている。また、研究費の不正使用防止に係る諸規程を制定するとともに、体制の構築を図り、科研費の更なる獲得のため、申請支援事業の拡充を図っている。
- 中期計画「研究医養成コースの充実に加え、学内共同研究プロジェクトや若手研究者への支援制度の充実等により、基礎医学・社会医学・臨床医学の研究を推進する高度な知識・能力と意欲を持つ研究人材を育成し、大学全体の研究競争力を高める。」に係る、平成26年度計画「研究推進戦略本部において、特別共同研究助成事業や若手研究者研究助成制度を継続的に運用する。」に対して、平成26年5月に特別共同研究助成事業・若手研究者研究助成事業を募集し、新規の特別共同研究を3件、若手研究を9件採択している。また、特別共同研究については、平成25年度からの継続2件と合わせ、5件の研究を実施している。
- 中期計画「研究医養成コースの充実に加え、学内共同研究プロジェクトや若手研究者への支援制度の充実等により、基礎医学・社会医学・臨床医学の研究を推進する高度な知識・能力と意欲を持つ研究人材を育成し、大学全体の研究競争力を高める。」に係る、平成26年度計画「研究推進戦略本部における検討結果を踏まえ、新たな女性研究者への支援制度の検討を実施する。」に対して、妊娠・出産・子育て中や家族に要介護者を抱える女性研究者の研究継続支援として、研究支援員制度の対象範囲を女性の教員に加えて診療助教及び研究助教も対象とする制度の見直しを実施している。

課題(●)

- 中期計画「研究に関する外部有識者を含む自己評価委員会を設置・運営するとともに、教室主任に研究目標の明確化を求め、達成状況を自己評価させ、極めて高い研究業績をあげた者に対する顕彰制度を新設する。」に係る、年度計画「外部評価委員の選任、研究に関する第三者評価を行うための評価項目、評価方法等についての検討」などについて、平成26年度では、「医大の将来像策定会議」において研究実施・評価体制のあり方について議論、検討している。平成27年度では、引き続き具現化に向けて議論、検討するとともに、外部委員候補者の選任に取り組んでいる。

【評価指標】

◎PubMed 対象の英文学術論文の累計数は、年度指標を大幅に上回っている。

◎基礎医学系教員育成数の累計人数は、年度指標を上回っている。

項目		H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
PubMed 対象 の英文学術 論文(累計)	指標	226 件	446 件	678 件	916 件	1,160 件	1,400 件
	実績	234 件	546 件				
	評定	○	◎				

項目		H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
基礎医学系 教員育成数 (累計)	指標	4名	6名	8名	10名	12名	14名
	実績	5名	8名*				
	評定	○	◎				

* 研究医養成コース(2年次編入)入学者6名(平成24年:2名、平成25年:2名、平成26年:2名)及び学内学生2名(平成25年:1名、平成26年度:1名)

項目別評価

IV. 診療

1. 医師・看護師等の離職防止と人材確保 2. がん拠点病院としての機能の充実
3. 治療成績の一層の向上 4. 患者満足の一層の向上 5. 老朽・狭隘施設への対策

<p>中期目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・就業規則を見直す[IV-1] ・ワークライフバランス検討委員会を設置・運営する[IV-1] ・女性医師数35名を目指す(後期臨床研修医を除く)[IV-1] ・看護師の離職率5%未満を目指す[IV-1] ・がん診療に特化した医師数を平成24年5月現在に比べ倍増を目指す[IV-2] ・がん治療の年間延べ患者数 35,000 名に対応する[IV-2] ・診療内容向上委員会を設置・運営する[IV-3] ・臨床指標(クリニカルインディケータ)を設定し、改善する[IV-3] ・臨床指標をホームページへ掲載し、毎年更新する[IV-3] ・入院・外来の診療内容に総合的に満足している患者の割合90%以上を維持する[IV-4] ・診察の待ち時間が長いと感じる患者の割合年1%ずつの減少を目指す[IV-4] ・ホスピタリティマインド向上委員会を設置・運営する[IV-4] ・(仮称)中央手術棟の平成27年度中のオープンを目指す[IV-5] ・教育・研究部門移転後の病院の整備計画を策定する[IV-5] ・教育・研究部門等移転対策検討委員会を設置・運営する[IV-5]
<p>年度評価</p>	<p style="text-align: center;">IV</p> <p>中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる</p>

注目される取組(○)

- 中期計画「都道府県がん診療連携拠点病院にふさわしい医療体制を構築するとともに、高度先進的な施設・機器を整備することにより、充実したがん治療を実施し、生存率の向上を目指す。」に係る、平成26年度計画「がん診療に関する施設・機器を整備し充実を図る。・放射線療法医師、化学療法医師等のがん専門医の育成・確保に努める。・がん専門医臨床研修事業等、がん医療に携わる人材の養成のための研修を実施する。・がん診療連携拠点病院間の役割分担と連携を推進し、がん診療提供環境の整備、充実を図る。・がん相談専門員研修を受講させるなど、相談員のがん相談スキルを向上させる。」に対して、E棟2期工事完成に向けて放射線治療装置の選定、PETCT装置の選定を行い、がん専門医の増員を行っている。腫瘍学セミナーを4回、がん診療連携拠点病院研修会を6回開催している。
- 中期計画「(仮称)診療内容向上委員会を設置・運営するとともに、医大版臨床指標(Clinical Indicator)を定めて、診療の質と量に対する現状分析を行い、一層の治療成績の向上を図る。」に係る、平成26年度計画「医療の質評価委員会を運営する。」に対して、医療安全・質評価・教育対策プロジェクトにおいて、診療科へのアンケート、TQM(Total Quality Management)、クリティカルパス等質の向上に向けての具体的な取り組みについて検討、協議を行い、クリティカルパス作成の推進、他大学病院とのベンチマークの端末での参照、平成27年度のTQM活動の予算化等を行っている。
- 中期計画「(仮称)診療内容向上委員会を設置・運営するとともに、医大版臨床指標(Clinical Indicator)を定めて、診療の質と量に対する現状分析を行い、一層の治療成績の向上を図る。」に係る、平成26年度計画「適正な臨床指標を設定し、運用を行い、公表する。」に対して、医療の質評価委員会で承認された平成26年度公表分の臨床指標について、ホームページで公開し、臨床指標の設定及び公表を行っている。
- 中期計画「医療人のホスピタリティマインドの醸成及び患者の意見、要望を反映させた病院運営を行い、患者満足の一層の向上を図る。」に係る、平成26年度計画「患者意見を反映するため、ホスピタリティマインド向上委員会を運営する。」に対して、ホスピタリティマインド向上委員会を2回開催し、患者満足度調査の実施や、毎月、声のポストに届いた患者意見を病院運営会議等に報告し、検討している。

○中期計画「医療人のホスピタリティマインドの醸成及び患者の意見、要望を反映させた病院運営を行い、患者満足の一層の向上を図る。」に係る、平成26年度計画「案内サインの整備や老朽箇所の改修を行う。また、案内員の配置等の充実を行い、案内業務の質の向上を図る。」に対して、正面玄関庇改修、BC棟通路改修工事を行い、案内サインについては、各種工事に併せ改修し、また、患者ニーズに合わせ案内員を配置している。

【評価指標】

- ◎がん治療件数は、がん診療に関する施設、機器を整備し、研修会等による専門医や専門職種等の人材育成を積極的に行ったため、年度指標を大幅に上回っている。
- ◎診療内容に満足している患者の割合は、2年連続で年度指標、最終年度指標を達成している。
- ◎診療の待ち時間が長いと感じる患者の割合は、年度指標を大幅に上回っている。
- 看護師の離職率については、ワークライフバランス検討委員会において継続的に検討し、改善のための取組を行っているものの、年度指標を下回っている。

項目		H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
女性医師数*	指標	25名	27名	29名	31名	33名	35名
	実績	27名	26名				
	評定	○	○				

* 女性の臨床系教員(中央部門含む)

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
看護師の離職率	指標	7.0%	6.5%	6.0%	5.5%	5.0%	5.0%
	実績	7.1%	8.1%				
	評定	○	●				

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
がん治療件数*	指標	32,000件	32,700件	33,400件	34,100件	34,700件	35,000件
	実績	30,815件	35,610件				
	評定	●	◎				

* 放射線治療、化学療法の計

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
診療内容に満足している患者の割合	指標	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上
	実績	90%以上	90%以上*				
	評定	○	◎				

* 患者満足度調査の結果、入院については91.5%、外来については96.6%の患者が「満足」と回答

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
診療の待ち時間が長いと感じる患者の割合	指標	35%	34%	33%	32%	31%	30%
	実績	33.4%	30.1%				
	評定	○	◎				

項目別評価

V. まちづくり

1. 教育・研究部門の円滑な移転と新キャンパス整備
2. 地域に開かれたキャンパスづくり
3. 教育・研究部門等移転後の跡地活用
4. 移転を契機とした研究分野での地域貢献
5. 健康づくり・予防医療等への貢献

中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・新キャンパスの平成33年中のオープンを目指す[V-1][V-2][V-3] ・教育・研究部門等移転対策検討委員会を設置・運営する[V-1][V-2][V-3] ・教育・研究部門移転後の病院の整備計画を策定する[V-3] ・(仮称)大和漢方医学薬学センターを設置・運営する[V-4] ・住居医学講座、スポーツ医学講座などのエビデンスの確立と講習会等を実施する[V-4] ・外部有識者を含む評価委員会を設置・運営する[V-4] ・リビングサイエンスの推進に向けた具体的な研究を実施し、県内へ普及する[V-5] 	
年度評価	Ⅲ	中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる

課題(●)

- 中期計画「平成33年中の新キャンパスオープンを目指し、教育・研究機能の充実と地域に貢献できる新たな機能を備えた整備計画を進める。」に対し、平成26年度計画は「(1)・医大の将来像策定会議、同 WG、および教育・研究・診療等の各分野に関するサブ WG を運営し、現キャンパス整備に向けた調査検討を実施するとともに、学内の合意形成を図り、基本構想(附属病院・新キャンパス)を策定する。」としている。施設整備に係る年度計画の策定後に、県の意向も踏まえ、新キャンパスの整備並びに病院施設の再整備に当たって、少なくとも30年から40年先を見据えた、医大の目指すべき将来像をしっかりと踏まえる必要があるとの考えに立ち、県と医大とで構成している「医大の将来像策定会議」をおおむね月1回開催し、医大の目指すべき将来像について議論検討している。平成26年度では、施設整備の前提となる医大の目指すべき将来像の検討について、広範かつ緻密な議論を尽くしながら行っているため、新キャンパスの基本構想、基本計画の策定には至っていない。平成27年度では年度内に医大の目指すべき将来像を取りまとめるべく議論、検討をしている。医大の目指すべき将来像が定まった後に、それを踏まえて全体的な施設整備基本計画の策定を進めることとしている。

項目別評価

VI. 法人運営

1. ガバナンス体制の充実強化 2. ワークライフバランスの充実強化
3. 同窓会・歴代卒業生との連携 4. 繰越欠損金の解消

中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・評価委員会の全体評価で好成績をあげる[VI-1] ・就業規則を見直す[VI-2] ・ワークライフバランス検討委員会を設置・運営する[VI-2] ・年次有給休暇取得日数を平成22年に比べ倍増を目指す[VI-2] ・寄附件数 1,000 件を目指す[VI-3] ・繰越欠損金の解消を目指す[VI-4] 	
年度評価	IV	中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

注目される取組(○)

- 中期計画「中期目標・中期計画を始めとし、法人の運営方針や規範等の情報について全教職員が共有し、一丸となって業務に取り組む。また、広報体制を充実し、様々な広報媒体を活用して、法人の取り組みを積極的に発信する。」に係る、平成26年度計画「研修会等の機会をとらえ中期目標・中期計画について周知を図る。併せてアンケートなどを通じて認識状況の検証も行う。」に対して、平成26年4月に新採職員(180名)オリエンテーションにおいて、中期目標・中期計画のハンドブック配布と併せて概要を説明し、同年8月に知事講演会を開催し、約600名に対し中期計画にも関連する医大の将来像策定に向けた講演を行っている。また、年間を通じて、理事長・学長が本学にとって重要と考える情報や考えを「理事長・学長からのお知らせ」として、全教職員・学生にメールや学報にて発信している。
- 中期計画「中期目標・中期計画を始めとし、法人の運営方針や規範等の情報について全教職員が共有し、一丸となって業務に取り組む。また、広報体制を充実し、様々な広報媒体を活用して、法人の取り組みを積極的に発信する。」に係る、平成26年度計画「中期計画・平成26年度計画について、平成26年度における重点管理項目を定め、項目責任者による執行役員会議において進捗管理を行う。また、中長期計画推進委員会において、平成25年度の実績・取組状況について分析・評価を行い、各部局にフィードバックすることで、中期目標の達成に向けた中期計画の着実な推進を図る。」に対して、平成25年度評価で、「課題」とされた項目について、平成26年度は概ね実施・改善することができ、当該年度計画の進捗管理について、法人のみならず、県も交えて4半期ごとに行っている。
- 中期計画「中期目標・中期計画を始めとし、法人の運営方針や規範等の情報について全教職員が共有し、一丸となって業務に取り組む。また、広報体制を充実し、様々な広報媒体を活用して、法人の取り組みを積極的に発信する。」に係る、平成26年度計画「引き続き採用方法等の検討を行い有用な職員の確保に努めるとともに、職員の資質向上のために職位や経験等に応じた研修を実施する。」に対して、事務職員の採用については、年齢上限を35歳から40歳に引き上げ、医療技術職については、採用募集時期を7月から6月に早めることで、有用な職員の確保に努めている。また、職員研修については、年8回管理職研修を実施し、資質向上に努めている。
- 中期計画「医師・看護師等の適正な増員と配置及び短時間正規労働制度の導入によるワークライフバランスの改善等により、仕事と生活が両立できる働きやすい職場環境の構築を図る。」に係る、平成26年度計画「ワークライフバランス検討委員会において、定員増や病児保育を行うための学内保育園の整備計画を策定する。」に対して、平成27年1月より民間施設を活用した病児保育制度を導入している。また、平成26年度に園舎を増築し、平成27年度より定員を60人から90人へと増員を予定している。

- 中期計画「同窓会や卒業生との連携・交流を強化し、母校愛の育成と協力意識の向上を図るとともに、大学移転を踏まえた教育・研究環境の整備・充実のため、広く寄附を募る。」に係る、平成26年度計画「卒業生のアンケート結果や聞き取りした意見を基にカリキュラム改正の検討を行う。・同窓会と連携をして70周年記念事業の企画案に基づき準備を進めるとともに、寄附金の募集を行う。」に対して、アンケートやインタビューの結果も踏まえ、英語教育や臨床実習の充実を盛り込んだ新カリキュラムの編成案を作成し、平成27年5月の70周年記念式典を期して寄附金の募集を開始すべく、本学役員、同窓会役員らで構成される募金推進委員会を立ち上げ、新たな基金の設置、効果的な募集方法、寄附金の使途等の制度設計を完了している。
- 中期計画「県からの運営費交付金を確保しつつ、効率的・効果的な大学・病院経営を行い、第2期中期目標期間において繰越欠損金の解消に努める。」に係る、平成26年度計画「法人全体の財務分析・長期収支見通し及び附属病院のSWOT分析等により、経営上の課題を抽出し、改善方策の検討・策定を行う。」に対して、診療科ごとの稼働状況(収入、患者数、DPC(Diagnosis Procedure Combination)分析等)を4半期ごとに各診療科に提示し、要改善点などを伝達し、附属病院の各診療科別SWOT分析について、各診療科に提示している。また、経営検討会議においても数値目標を上方修正のうえ、達成目標を管理している。
- 中期計画「県からの運営費交付金を確保しつつ、効率的・効果的な大学・病院経営を行い、第2期中期目標期間において繰越欠損金の解消に努める。」に係る、平成26年度計画「適切な水準の病床稼働率の確保、平均在院日数の適正化、施設基準の取得・維持等により診療収入の確保を図るとともに、精度向上による診療報酬請求の一層の適正化、債権の適正な管理による未収金の抑制を図る。また、H26診療報酬改定の影響を検証し必要な対応を行う。」に対して、病床稼働率89.1%を達成し、前年度比約24億円の病院収入を増収している。診療報酬請求の一層の適正化に努めている。

【評価指標】

- ワークライフバランスの推進に向けた取組を行っているものの、医師に関して、1人あたりの年次有給休暇取得日数については、年度指標を下回っている。
- 寄附件数については年度指標を下回っているが、新たな基金の設置、募集方法、寄附金の使途等の制度設計を行う等、さらなる件数の増加に向けた取組を行っている。
- 繰越欠損金の額については年度指標には届かないが、平成26年度は黒字決算を実現しており、さらなる繰越欠損金の解消に向けて取り組んでいる。

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
評価委員会の評価	指標	常に評価結果を高い水準で維持					
	実績	項目別評価 Ⅳ:7 Ⅲ:1	項目別評価 Ⅳ:6 Ⅲ:2				
	評定	○	○				

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
1人あたりの年次有給休暇取得日数	指標	【医師】 3.5日	4日	4.5日	5日	5.5日	6日
	実績	2.8日	2.4日*				
	評定	●	●				
	指標	【看護師】 4.5日	5日	5.5日	6日	7日	8日
	実績	3.6日	4.5日**				
	評定	●	○				
* 別途、夏期休暇として、2.7日(7月~9月)を取得している。							
** 別途、夏期休暇として、4.1日(7月~9月)を取得している。							

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
寄附件数	指標	900件	920件	940件	960件	980件	1,000件
	実績	817件	717件				
	評定	○	●				

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
繰越欠損金の額	指標	6.0億円	4.8億円	3.6億円	2.4億円	1.2億円	0円
	実績	10.8億円	10.5億円*				
	評定	●	●				
* 平成25年度末繰越欠損金: △1,077,767千円(退職給付債務計算方法変更による臨時損失 431,955千円を含む) 平成26年度決算: +29,053千円							

奈良県公立大学法人奈良県立医科大学評価委員会 委員名簿

氏名	役職等
今中 雄一	国立大学法人京都大学大学院医学研究科 医療経済学分野 教授
狭間 香代子	関西大学人間健康学部 教授
堀 正二	地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪府立成人病センター 名誉総長
矢島 洋子	三菱UFJリサーチ&コンサルティング 株式会社 主席研究員
◎安田 國雄	国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学 名誉教授

(五十音順 敬称略 ◎は委員長)